



## 高山正也前国立公文書館長に瑞宝中綬章 平成26年 春の叙勲



4月29日に発表された春の叙勲、今回は昨年5月に退任した前国立公文書館長、高山正也氏が瑞宝中綬章(ずいほうちゅうじゅしょう)を受けられた。

内閣府のHPによれば、瑞宝章は国家又は公共に対し功労のある方のうち、公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方に授与されるものだという。写真は瑞宝中綬章・略綬(左)

高山先生、おめでとうございます。

勲章	功勞	元職	氏名	性別	年齢	所在地
瑞中	教育研究功勞	元 立正大学学長	たかむら ひるき 高 村 弘 毅	男	76	東京都多摩市
瑞中	防衛行政事務功勞	元 調達実施本部副本部長	たかやま きよし 高 山 清	男	71	神奈川県横浜市
瑞中	内閣府行政事務功勞 教育研究功勞	元 国立公文書館長 慶應義塾大学名誉教授	たかやま まさや 高 山 正 也	男	72	神奈川県横浜市泉区
瑞中	教育研究功勞	琉球大学名誉教授	たけい ひろし 武 居 洋	男	80	沖縄県沖縄市
瑞中	教育研究功勞	元 諺聞電波工業高等専門学校校長	たけうち けんいち 竹 内 賢 一	男	76	京都府京都市左京区
瑞中	教育研究功勞	大阪大学名誉教授	たけおか ゆきはる 竹 岡 敬 温	男	82	兵庫県川西市
瑞中	防衛功勞	元 航空自衛隊航空総隊司令官	たけだ きよし 武 田 清	男	77	東京都中野区

内閣府平成26年春の叙勲 全22頁中12頁抜粋

[http://www8.cao.go.jp/shokun/hatsurei/26haru/meibo\\_jokun/zuiho-chujusho.pdf](http://www8.cao.go.jp/shokun/hatsurei/26haru/meibo_jokun/zuiho-chujusho.pdf) (2014-04-30 確認)

ずいほうちゅうじゅしょう 瑞宝中綬章

国家又は公共に対し功勞のある方

瑞宝章 公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方

### おもな内容

前館長高山正也氏に瑞宝中綬章……………1  
これからのデジタルアーカイブは？文献紹介/あしあと…2  
消息+全国の公文書館長/あしあと……………3

DJIレポート No.98+99 合併号 20140630

DJIの活動 2014年1月~6月……………4  
巻末随想 布施明/レイチャールズ・D.ギャレット他……………5

## これからのデジタルアーカイブは、どう作られていくべきか。 エンジニアが果たす役割は何か。

- Code IQ MAGAZINE 石井裕×渡邊英徳 緊急対談——「3.11」を未来記憶化するために必要なアーキテクチャとは #3.11 2014.03.18 Category: エンジニアコラム Tag: codeforjapan ,MIT ,オープンデータ

今、デジタル・アーカイブがアーカイブを凌駕している。そのデジタル・アーカイブが、技術的な側面で大いに議論されていることが、この記事でよくわかった。併せて「何を」扱うのかも議論されているので、そここのところをちょっとだけ抜粋したのでご一読下さい。(ち)

戦争や災害の記憶を時代や国境を超えて伝えるデジタルアーカイブの試みが注目されている。「情報アーキテクト」として、データと社会をつなぐ試みを続ける首都大学東京・渡邊英徳准教授。デジタル世界と物理世界をシームレスにつなぐことを研究テーマとするMIT メディアラボ石井裕教授。時を越えて記憶を未来に伝えるために、アーカイブをどのように設計するべきか、二人は熱く語り合う。  
by babaq (CodeIQ 中の人)

アーカイブズ学の領域では「レコード・コンティニューアム(記録連続体)」というモデルが提唱されています。ちょっと難しい話になりますが、個人や組織から生まれた「多面的」な記録が、社会の記憶としていかに取り込まれていくべきか、示したものです。私たちの「多面的デジタルアーカイブズ」は、このモデルを意識しています。例えば、広島原爆についての資料は、広島市、NPO、学校の同窓会など、さまざまな組織がまとめています。その中には、社会的に対立するものがあるかも知れない。でも、こうした「多面的」な資料をまとめて Google Earth に載せてみると、社会のしがらみを越えて、つながりをフラットに表現できるんです。

[https://codeiq.jp/magazine/2014/03/7060/?fb\\_action\\_ids=10202612709491846&fb\\_action\\_types=og.likes&fb\\_source=other\\_multiline&action\\_object\\_map=%5B595426477215236%5D&action\\_type\\_map=%5B%22og.likes%22%5D&action\\_ref\\_map=%5B%5D](https://codeiq.jp/magazine/2014/03/7060/?fb_action_ids=10202612709491846&fb_action_types=og.likes&fb_source=other_multiline&action_object_map=%5B595426477215236%5D&action_type_map=%5B%22og.likes%22%5D&action_ref_map=%5B%5D)  
(2014-04-16 確認)

### ●◆▼やぶにらみ文献紹介【●図書◆論文▼逐次刊行物■その他】

#### ●憲法 第五版



今年のパレンタインに弁護士さんたちが安倍晋三首相にチョコレートとともにプレゼントしたという憲法の教科書。そのことをFacebookで知って、早速買ってみた。いにしえに学校で習ったような憲法の解釈を読むことができ、なんだかホッとした。自分が育った時代の憲法解釈を読むと、その時代に自分が

いたことがよくわかる。しかし、この本には日本国憲法それ自体は掲載されていない。六法全書片手に首っ引きで読むべき本なんだろうな。著者は芦部 信喜、高橋 和之、岩波書店、3255 円

▼LRG ライブラリー・リソース・ガイド第6号 2014年冬号 掲載記事は3本。熊谷慎一郎「東日本大震災と図書館」は、被災した図書館を再開するまでの手順を丁寧に解説している。島田綾子「図書館で学ぶ防災・災害」は、全国各地の図書館がもつ災害関連コレクションの紹介で収録45件。3.11 はもとより阪神大震災や新潟中越地震、古くは伊勢湾台風や戦争も対象に含まれている読むデータベース。これも島田綾

### ●特集 千代子のあしあと●◆▼●◆●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

▼DJIレポート No.98+99 2014年6月30日 up、7 p、PDF. [www.djichiiyoko.com](http://www.djichiiyoko.com) 国際資料研究所

▼RMSJ ニュースレター1月号 No.65 「年頭ごあいさつ」【チョコの視点】国際赤十字委員会アーカイブの訪問調査の訪問調査 と赤十字新月博物館見学(年頭ごあいさつ以外は DJI レポートNo.97 転載)

▼レコード・マネジメントNo.66、2014.3 翻訳 倫理と

子による「全国司書名鑑 No.2」はエル・ライブラリーの谷合佳代子さんをインタビューした記事。八面六臂の活躍ぶりとその元気がストレートに伝わる。読んだら元気が出てくる本だ。アカデミック・リソース・ガイド(株)発行、A5判 160p、2500 円+税

▼月刊 IM 電子版移行に伴い、2014年2月号(2014.1.25 発行号)で紙印刷版は終了。2014年3月号(2014.2.25 発行号)からは、電子版の無償閲覧を開始する。3月号からは ID とパスワードを登録する。なお、紙印刷版はオンデマンド印刷、1冊 1000 円(税、送料別) [http://www.jiima.or.jp/publishig/IM\\_trailer.html](http://www.jiima.or.jp/publishig/IM_trailer.html)

#### ●大西愛編『アーカイブ・ボランティア—国内の被災地で、そして海外の難民資料を—』

2009年にスタートしたジュネーブでのボランティアを軸に、国際機関のアーカイブの調査成果を紹介した第2部第9章、福島原発事故を受けて翻訳した放射能汚染文書の除染マニュアル(ユネスコ・チェルノブイリ・プログラムによる)が国内ボランティアを扱う第1部第6章を執筆。コラム 2 件も担当した。大阪大学出版会、2014.6 発行、1700 円+税

アーカイブの仕事 —入門とケーススタディー(その 1) カレン・ベネディクト著、李東真と共訳; 文献紹介 根本彰編『情報資源の社会制度と経営』(シリーズ図書館情報学 3)

●大西愛編『アーカイブ・ボランティア—国内の被災地で、そして海外の難民資料を—』第6章、第9章他担当、大阪大学出版会、2014.6 発行、1700 円+税

◇◆◇アーキビストの消息（順不同、敬称略）◇◆◇【凡例：■機関●個人】

2014年3月31日退職

- 石井 修氏 藤沢市文書館長
- 小松芳郎氏 松本市文書館長
- 岡田昭二氏 群馬県立文書館長
- 戸島明氏 秋田県立公文書館長

4月1日新任

- 中島淳一氏 藤沢市文書館長
- 新藤聡氏 寒川文書館長
- 寺崎 克仁氏 北海道立文書館長

■全国の公文書館長（2014年6月9日国際アーカイブズ・デー資料から）

北海道立文書館	寺崎 克仁	宮崎県文書センター	椎 重明
青森県公文書センター	白山 昭彦	沖縄県公文書館	本間 勝
宮城県公文書館	草苺 恭	札幌市公文書館	輪島 博史
秋田県公文書館	平井 利昭	川崎市公文書館	星野 宏幹
福島県歴史資料館	遠藤 俊博	名古屋市市政資料館	佐合 広利
茨城県立歴史館	人見 実徳	大阪市公文書館	遠藤 博文
栃木県立文書館	高齋 吉明	神戸市文書館	松本 正三
群馬県立文書館	石原 孝雄	広島市公文書館	中川 利國
埼玉県立文書館	代島 常造	北九州市立文書館	山本 泰史
千葉県文書館	和田 正夫	福岡市総合図書館	久池井 良人
東京都公文書館	岡 秀子	小山市文書館	岸 重則
神奈川県立公文書館	杉江 嘉美	芳賀町総合情報館	染谷 薫
新潟県立文書館	桑原 光矢	中之条町歴史と民俗の博物館 「ミュゼ」	一場 貞
富山県公文書館	村井 保雄	久喜市公文書館	丸山 謙司
福井県文書館	柿木 孝勇	八潮市立資料館	鈴木 博
長野県立歴史館	百瀬 清	戸田市アーカイブズ・センタ ー	熊谷 尚慶
岐阜県歴史資料館	野口 昌良	板橋区公文書館	大澤 宣仁
愛知県公文書館	各務 省吾	ふるさと府中歴史館	江口 桂
三重県総合博物館	布谷 知夫	藤沢市文書館	中島 淳一
滋賀県県政史料室	甲斐 徹	相模原市立公文書館	未定
京都府立総合資料館	伊藤 秀一	寒川文書館	新藤 聡
大阪府公文書館	村上 裕治	上越市公文書センター	佐藤 俊幸
兵庫県公館県政資料館	森本 剛史	富山市公文書館	上野 武彦
奈良県立図書情報館	千田 稔	長野市公文書館	善財 孝文
和歌山県立文書館	宮井 良彦	松本市文書館	小林 高樹
鳥取県立公文書館	杉本 明	小布施町文書館	山岸 正男
島根県公文書センター	舟木 秀夫	高山市公文書館	洞口 清司
岡山県立記録資料館	定兼 学	磐田市歴史文書館	佐藤 喜好
広島県立文書館	八津川 和義	守山市公文書館	井上 徳夫
山口県文書館	長谷川 信明	尼崎市立地域研究史料館	辻川 敦
徳島県立文書館	山下 知之	三豊市文書館	松田 行弘
香川県立文書館	松本 吉弘	西予市城川文書館	
福岡共同公文書館	小原 康弘	太宰府市公文書館	百田 繁俊
佐賀県公文書館	大塚 武司	天草市立天草アーカイブズ	金子 久美子
大分県公文書館	土谷 晃	北谷町公文書館	松田 つや子

●特集 千代子のあしあと●◆▼●◆●●図書◆論文▼逐次刊行物■その他●◆▼●◆

- ▼DJILレポート No.98+99 2014年6月30日 up、7頁、PDF、[www.djichiiyoko.com](http://www.djichiiyoko.com) Web 国際資料研究所
- ▼RMSJ ニュースレター1月号 No.65 「年頭ごあいさつ」【「チョコの視点」国際赤十字委員会アーカイブの訪問調査の訪問調査 と赤十字新月博物館見学」（年頭ごあいさつ以外はDJILレポートNo.97 転載）
- ▼レコード・マネジメント No.66、2014.3 翻訳 倫理と

- アーカイブの仕事 —入門とケーススタディー（その1）カレン・ベネディクト著、李東真と共訳； 文献紹介 根本彰編『情報資源の社会制度と経営』（シリーズ図書館情報学 3）
- 大西愛編『アーカイブ・ボランティア—国内の被災地で、そして海外の難民資料を—』第6章、第9章他担当、大阪大学出版会、2014.6 発行、1700円＋税

DJI国際資料研究所の主な活動 2014年1月1日～2014年6月30日

<執筆>

- ・『DJIレポート』No.98 20140630 発行 4頁  
www.djichiiyoko.com にPDF掲載
- ・『レコード・マネジメント』No.66 翻訳 倫理とアーカイブの仕事 入門とケーススタディー (その1) カレン・ベネディクト著、訳李東真と共訳； 文献紹介 根本彰編『情報資源の社会制度と経営』(シリーズ図書館情報学3)
- ・『アーカイブの今!』2013 東大情報学環受講者成果報告書、[www.djichiiyoko.com](http://www.djichiiyoko.com)> リポジトリにPDF掲載 編著
- ・大西愛編『アーカイブ・ボランティア 国内の被災地で、そして海外の難民資料を』第6章、第9章他担当、大阪大学出版会、2014.6 発行、1700円+税 <出講>
- 1月7,14,21,28日 2月4日、東京学芸大学「博物館資料保存論」、東京
- 1月8日 鶴見大学文学部「記録管理論」
- 1月11, 25日 藤女子大学図書館情報学課程「情報資源組織論」札幌
- 4月8,15,22日、5月13,20,27日、6月3,10,17,24日 東京大学大学院情報学環「アーカイブの世界」、本郷、東京
- 4月12, 19, 25日 5月10, 17, 24, 31日 6月7,17,21,28日 藤女子大学 藤女子大学図書館情報学課程「図書館概論」「図書館情報資源概論」札幌
- 4月17,24日、5月1, 8,15,22,29日、6月5,12,19,26日 中央大学文学部「記録管理論」同大学院「社会情報学特講IX」、八王子、東京
- <見学>
- 4月10日 外務省外交史料館特別展「日本とスペイン」、東京
- 5月20日 東京大学文書館、東京大学大学院授業
- 5月23日 札幌市公文書館(記録管理学会大会前見学会)、札幌市
- 6月29日 板橋区公文書館、東京大学大学院授業 <鑑賞> ★は「楽しさ」多ければより楽しい、の意。
- 1月19日 ピアノ・エレクトーン合同音楽発表会 中村楽器指導者友の会、柏市民ホール、千葉★★

- 2月5日 札幌雪まつり、札幌★★★
- 3月14日 布施明LIVE2013.2014～夢でもいいから～ 鎌倉芸術館大ホール、大船★
- 3月29日 東武動物公園、埼玉県宮代町★★★
- 6月22日 David Garret Music Live Tokyo 六本木ブルーシアター★★★
- <参加>
- 1月16日 アーカイブズ関係機関協議会、国立公文書館、東京
- 1月17日、3月4日、4月14日 藤沢市公文書等管理に関する有識者会議
- 1月24日、2月5,6日、3月1日 藤女子大学図書館情報学課程ガイダンスと履修相談会、札幌
- 1月31日 寒川文書館運営審議会
- 2月1日 千種台39会東京支部会、東京
- 2月5日 千種台39会札幌支部会、札幌
- 2月11日 脚本アーカイブズ一般公開へ向けて「アーカイブの現在と未来」東京大学福武ホール
- 2月27日 記録管理学会例会 L.レベタ「米国の情報公開法の特徴と日本の情報公開法の課題」、中央大学駿河台記念館、東京
- 3月1日 藤女子大学図書館情報学課程卒業の集い
- 3月7日 記録管理学会理事会、東京
- 3月18日 松本市文書館運営協議会、松本
- 3月22日 救急救命講習、東海岸3丁目町内会主催
- 3月22日 特定秘密保護法学習会 藤沢労働会館
- 3月28日 原発反対国会周辺デモ
- 3月30日 学校では教えてくれない～憲法のおはなしカフェ～(コスタリカの話、憲法の話) みんなで決めよう『原発』国民投票神奈川 ラウンドカフェ、藤沢市本鵜沼
- 4月6日 ベラ歓迎夕食会、塚田農場、田町、東京
- 5月23,24日 記録管理学会2014研究大会 札幌エルプラザ+藤女子大学、札幌
- 6月21日 藤女子大学特別授業 菅谷明子氏講演 <主催>
- 4月7日 ベラ歓迎湘南BBQ 国際資料研究所
- 4月9日 ベラ歓迎温泉旅行、箱根対岳荘
- 5月24日 藤女子大学小川研究室オープンハウス

\*\*\*\*\*

■巻末随想

■長らくお待ちせしました。98+99合併号は半年ぶりの発行となりました。久しぶりにDJIレポートをお届けします。なぜこんなに遅くなったのか明確な理由はありません。トピックを絞りきれなかったのが、多分その主な理由です。ともあれ、98+99合併号をまとめることができ、ホッとしています。次は100号です。

■(1)振込め詐欺電話がやってきた

古希を迎えたばかりの知人から久しぶりのメール。タイトルは「皆様にご忠告」とある。なんだろうと思ったら引っかけりかけた振込め詐欺のことだった。以下はもらったメール。

市役所の藤田という人から電話があり平成18年から23年までの5年間で医療費の負担が10%～30%で沢山払いすぎだったので5年間で23368円還付金がある

というお知らせを送ったのですが届いていますか？その支払期限が12月末までだったので・・・？

役所からこのところ色々書類が来ていて面倒だな・・・と思ってきちんと整理していなかったのではの中にそんなものがあつたのかしら・・・と 思って「すみません・・・ありませんが・・・」

「期限外手続きができますので直接銀行の窓口に行って頂けますか？」「お宅の近くですと御足労ですがA駅に三菱東京UFJ銀行があるのでそちらまでいらしてください。そして銀行の担当者から10分後位に電話があると思うのでその指示に従ってやって頂けますか？」という話で終わりました。

待っていたらしばらくして三菱東京UFJ銀行の田中です という人から電話があり医療費の還付金の受け取りに今日来られますか？と言われ「今日は無理です明日の午前中なら・・・」「三菱なら私はB支店に口座を

持っているのですがそちらではダメなのですか？」指定の支店しかダメなので…」「でも あの A はATMじゃないですよ…それで良いのですか？」などというやりとりがありました。それで次の日 A 駅の銀行のATMに銀行のキャッシュカード、通帳、身分証明、を持ってきて下さいと言われました。又、本来はこの手数料が2100円掛かるのですが当銀行に50万以上の預金をお持ちの方はその手数料を免除しますが預金は50万以上お持ちですか？と聞かれ『あります。』と答えました。そしてA駅の支店にいらしたらそちらの携帯からこちらの番号080-9142-\*\*\*\*に掛けて下さい、あなたの携帯番号は？で教えてしまった。

今考えてみると色々おかしいところはあるのですがその時は疑いもしないで…面倒だなと思いつつも行きつくりでいました。でも出かける寸前に「待てよ」と思い、電話が「ひつうち」だったのはどうして？とか、どうしてA駅のATMなの？とか思い、一応市役所で確認してからと電話したら、そんなものは送っていないとの事、今流行っている「還付金詐欺」だと言われびっくり！！警察に電話したらやはり今すぐ流行っている「還付金詐欺」だそうでこの同じ携帯番号で昨日騙された人が出ているとも。私は寸前で助かりました。

まずは、実害なく切り抜けた知人の無事はありがたいことだった。実は、筆者宅にも数年前に怪しい電話。以下、記憶をたどると、こんなことがあった。

ある日、ヒョウジケンガイ(表示圏外)からの電話で、地元警察を名乗る男が、なぜかなれなれしい関西弁で、こともあろうに「オタクの銀行通帳を持っていた出し子の男女を捕らえた。…で、あんたの口座の暗証番号は？」と、言葉巧みに聞き出そうとした。でも、私はその銀行通帳を持っていない。関西弁は「旦那さんが奥さんに内緒で口座作っているかもしれない。アタシもやりますから。なにかあったら連絡下さい」と言って、連絡先を言わずに電話は切れた。私はすぐに改めて110番したら、「いま、沢山そういう連絡が来ています。また連絡があるかもしれないから、その時は警察のナントカ担当に連絡下さい」とのこと。以来、次の電話はまだ来ていない。

この経験から、電話のナンバーディスプレイを確認して「ひつうち」「ヒョウジケンガイ」には応答しないことを決めた。思えば亡父は親子孫といえども、金銭貸借は他人と教えた。ケチな父だと当時はちょっとがっかりした。だが、この冷たさは正解だ。この冷たさを守れる間は、まだ毫碌していないと自己診断しておこう。借金には父に似て私も冷たい。

### ■(2)～夢でもいいから～ 布施明コンサート

YouTubeでバイオリンを聞くのに少し飽きてきた。で、久しぶりにJポップでも、と布施明のコンサートに出かけた。会場は鎌倉芸術館なので、比較的近隣。客席は同年代の夫婦たちではほぼ満席。開演前の雰囲気はなかなか和やかで良かった。しかし、演奏が始まった途端にホールは電子的に増幅された大音響で満杯。耳が痛い。そっと耳栓で自己防衛した。開演直前に誰かが「この前の

コンサートでは最後の頃声がでてなかったのよね」と言っていた。声が出なくては、歌手は具合悪かろう。しかし、このコンサートではスピーカーを通した音声以外は全く聞こえなかった。コンサートなんだから、声が若干聞こえにくくても、肉声を聞いたかったのに、大学祭みたいな電子増幅大音響だけを聞かされてしまって、、、残念でした。

### ■(3)～レイ・チャールズにハマって～

布施明コンサートからの立ち直りは、またまたYouTubeに頼った。そうだ、PIAFSの愛の賛歌を聞こう。プレスリも聞きたい。それから、昔リクエスト・アワーで聞いたあの“I can't stop loving you!”も聞きたい。ほかのキーワードを思いつかなかったの、歌詞をそのまま入れたら、出てきたのがレイ・チャールズ。英語習いたての頃に聞いた僅かに知ってる単語が並ぶあの歌詞、あの声、懐かしい。そこからまた手探りでレイ・チャールズのYouTubeを探し、アマゾンを探し、聴きまくった。ついでにWikiでレイのことも一通りの知識を得ることができた。そこからさらに1960年代のゴスペルとか、カントリーとかの世界に迷い込み、しばらくそこでゆったりと音の世界に埋没した。

### ■(4)～デイヴィッド・ギャレット Music Live Tokyo～

梅雨の夕暮れ、六本木ブルーシアターのライブに出かけた。布施明の場合と同じく大音量電子音響。客席は満席で、その人々の多様なことは驚くばかりだった。それだけギャレットが広く受け入れられている、または関心を持たれているんだろう。老若男女様々。ライブの力の良い若者だけでなく、筆者のような中高年、楽器を習わせている子供を連れた母親や、楽器をしょって中年白人男性(多分、演奏家?)、音楽学校の学生、卒業生みたいな雰囲気の人々も見受けられた。

演奏の方はといえばこれまでにYouTubeでもお馴染みの曲目、ギャレットも画面で見ると寸分たがわぬ人物だった。客席を歩きながら演奏する演出や、自らマイクをとってのトークは心地よく安心。特にトークが(ドイツ語でなく)英語だったので助かった。ギャレットの人柄も悪くない印象。クロスオーバー＝バンド編成でクラシックとロックを融合でクラシックを題材にしたものを多く聞かせていたのは、日本の聴衆への配慮だろうか。全体として、「見せるコンサート」と理解した。耳に届く音からのメッセージは、大音量の波に飲み込まれたみたいで。。。高価なストラディバリバイオリンの音色を増幅なしに聞いてみたかったのだが、これは叶わず。というわけで、7月に日本でも公開される映画「パガニーニ 愛と狂気のバイオリニスト」でギャレットの演奏をもう一度今度は映画館で聞いてみよう。本人も、映画出演よりはサウンドトラックの制作こそが自分にとっては魅力ある仕事だったと語っていたから。(ち)



